

10年後の鶴ヶ島を、 考えてみませんか？



現在、令和2年度から10年間の計画期間とする「総合計画」の策定に向けて取り組みを進めています。鶴ヶ島市をより良いまちにするために、皆様のご意見・ご提案をお聞かせください。

6月4日に開催した「まちづくり意見交換会」の様子

問合先 政策推進課政策担当

総合計画って何？

これから10年先の鶴ヶ島をどのようなまちにしていくのか、その方向性を描いた、『まちづくりの指針』となるものです。

どのようなまちを目指すのかを表した「基本構想」と、それを実現するために取り組むべき施策を示した「基本計画」で構成しています。

なぜ総合計画が必要なの？

まちの将来像や、まちづくりの方向性を定め、その実現に向けた方策を示し、総合的・計画的なまちづくりを進めるための基本的な指針となるのが必要なことから、総合計画を策定しています。

昭和47年に初めての総合計画を策定し、それ以降、約10年ごとに新しい計画を策定してきました。

現在の総合計画は5番目(第5次総合計画)で、平成23年度から令和2年度の10年間の計画期間としています。

しかし、ここ数年の時代の変化とともに、鶴ヶ島を取り巻く環境は、大きく変わりつつあります。例えば、太田ヶ谷地内にある農業大学校跡地とその周辺についての状況の変化など、計画策定当初には想定していなかった新たな課題などが発生してきています。

こうした課題に柔軟に対応していくため、現在の計画期間を1年短くし、次の総合計画(第6次総合計画)は、令和2年度から10年間の計画として、策定していきます。

どのように計画をつくるの？

新たな総合計画は、行政だけでなく、決めるものではなく、市民の皆さんや、地域で活動している各団体などの皆さんからも意見をいただき、それらの意見を反映させながら、一緒につくり上げていくことが大切です。

そのためには、多くの皆さんが計画策定の過程で参加できる機会を確保することが重要です。

計画策定の情報や経過の他、皆さんから寄せられた意見などは、広報紙やホームページでお知らせします。

また、現行計画の成果や課題を把握するとともに、それをしっかりと検証し、次の計画に活かしていくかなければなりません。

現在、様々な分野で活躍されている市民の方などによって構成する「まちづくり審議会」で、多種多様なご意見をいただきながら、集中的な議論を行っています。

次ページからは、その審議会の委員さんにお伺いしたお話しの内容をお届けします。

Interview

いし い まさあき
石井 雅章さん

まちづくり審議会会長
神田外語大学准教授



これからの鶴ヶ島のために

「まちづくり審議会」とは、どのような会なのでしょう？

市の審議会の一つで、市の方向性を示す重要な計画である「総合計画」の策定のために、様々な意見やアイデアなどを議論しています。

市民と学識経験者など、10人で構成されています。子育てや福祉、スポーツ、商業、金融など、いろいろな立場で市に関わっている方たちが、委員として参加しています。

皆さんが、それぞれの立場から、今の市が抱えている問題や、今後の市が目指すべき方向性などについて、意見を出し合っています。

現在は、来年度からの「第6次総合計画」の策定について市長から諮問を受け、答申に向けて意見交換をしています。

審議会では、どのようなことを議論しているのでしょうか？

次期総合計画や基本構想の軸となる今後の市の将来像について議論しています。

例えば、「一つの核となるイメージや、ブランドなどをつくったらいいのではないか」という意見や、若い市民の生活に根差した表現で、「子育てがしやすいまち」や、「安心安全に暮らせるまち」、「地域の人たち同士の間わり合いが増えるまち」など、具体的なイメージに関して、多面的な意見が出ています。

これからの鶴ヶ島をどのようにしていきたいとお考えでしょうか？

自分たちの住んでいるまちの姿というのは、誰かに与えられて降りてくるものではなくて、その住んでいる人たち、働いている人たち、そこに関わる人たちが、お互いに関係しながら一緒につくり上げていくものだと思います。

今、そのような関係性を、市民の方々が普段から持つのは現実的に難しい状況がありますが、これからは

立場の違う方や、考え方が違う方たちとも普段から一緒にコミュニケーションがとれる状況をつくりあげることが理想です。

相手のことを尊重し、お互いの意見をくみ取りながら、「自分たちでこのまちをこうしていきたい」ということを、普段から普通に会話ができる、意見が言えるような、そして行動に移せるような、そんなまちにならぬのが理想ではないでしょうか。

市民の皆さんが意見や思いを伝えるにはどうしたら？

意見や思いを伝えるためのメディアは市のホームページなどもありますが、そこには意見を伝える場所もあります。

ただ、意見交換の場はいろいろとあ

りますが、すべての基盤になるのは「対話」だと思います。生身の人間同士が向き合って、お互いが言葉を交わし、尊重し合って、考えていたり、困っていたり、気付いたことを普通に伝え合える環境づくりが大切です。議論して意見を一方的にぶつけ合うと言うよりも、自分たちが感じた



「まちづくり審議会」の様子

こと、困っていることを出し合ってそれを伝え合う、共有し合う。そういうことが、まずは何よりも大事だと思います。

市民の方々にメッセージを

「将来のまちづくり」と言われると、すごく難しいことで、何か特別な人が考えなきゃいけないものと思ってしまうんですが、全然そんなことはありません。

普段生活しているときのちょっとした気付きや、困りごと、それとは逆にちょっと良かったなと思うことなどを、皆さん普段からたくさん感じているらっしゃると思います。それこそが、実はまちづくりに活かせるものなんだということ、意識していただければうれしいです。

まちづくりなんて、私には関係無いと思ってしまうのはもったいないことです。普段考えたり、感じたりしていることは、とても大切で、鶴ヶ島の将来に必ずつながります。

皆さんがご持ちの意見やアイデアが反映されるような総合計画にしていきたいと思っています。



Interview

ひらの 明さん

まちづくり審議会委員
公募により選出

皆さんの意見を

まちづくり審議会の委員となった
きっかけを教えてください

まちづくりに興味を持っていたので、ぜひ関わりたいと思い応募しました。鶴ヶ島のためになれることに、本当に感謝しています。

私は元々、毛呂山町に住んでいたんです。今後の老後というか、高齢になったときに、環境的に少し住みにくかったんですよ。

自分が家を建てるのは最後だと考えたときに、駅から近くて、交通の利便性が良い鶴ヶ島が私には合っているなど。鶴ヶ島なら生涯住めるだ

ろうと思って引越したんです。

これからずっと住むにあたって、良いまちだけど、もっと良いまちになってほしいという願いがあるので、少しでも貢献できればと思っています。

今までの審議会で議論をしてみても感想はいかがですか？

鶴ヶ島全体の将来を考えていきたいと思うので、まちづくりの指針となる総合計画の策定に関わるということ、スタートしたばかりですが、とてもワクワクしています。当然、大きな責任がありますから、しっかりと審議会の委員としてやっ

ていきたいと思っています。

これからの鶴ヶ島をどのようにしていきたいとお考えでしょうか？

一人ひとりが安心安全で、生き活きと元気に過ごせるようなまちにしていきたいです。そのために、これからいろいろと感じたことを提案していこうと考えています。

また、鶴ヶ島だけではなく、近隣の市や町と共存し、お互いに連携・協力しなければ、皆さんが幸せにならないと思います。

そういう思いを持ちながら、鶴ヶ島の発展に寄与していきたいと思っています。

市民の方々にメッセージを

以前は、私も思うことがあっても、誰にどのような方法で伝えていいのかというのが、分からなかったんですよ。

おそらく、皆さんもそういう思いでいらっしゃるのかと。ですので、意見や思いは、たくさんお持ちだと思うので、できるだけ多くの意見などを聞きたいと思っています。できれば、偏った意見ばかりが市政に活かされてしまい、本当の問題が見えてきません。普段、意見をおっしゃらない方々の意見も、ぜひお聞きしたいですね。

【今までの取り組み】

これまで、策定基本方針の決定から始まり、様々な調査や分析を行ってきました。市のまちづくりや施策などに対する評価、意向を把握するため、「市民意識調査」を実施するとともに、市内で活躍している団体の皆さんの意向を把握するため、「団体ヒアリング」を行いました。

この他にも、「転出者・転入者アンケート」や、複数回開催した「まちづくり審議会」、市職員で組織する「総合計画策定本部」から、様々な意見が出されました。

また、6月4日に開催した「まちづくり意見交換会」では、参加された13組の方々から、「普段の生活などで感じていること」や、「将来に向けて、いま特に気になっていること」、「将来どのようなまちにしたいか」について、様々な意見が出されました。さらに、6月10日に開催した「まちづくり審議会」では、皆さんからの意見をどのように反映させるかなど、活発な議論が行われ、計画の素案への検討がされました。

これら、多種多様なご意見と現行計画の分析・課題抽出を踏まえ、より良いまちづくり計画となるよう、素案の作成を進めています。

まずは第一歩を

まちづくり審議会の委員となった
きっかけを教えてください

私は、鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会の代表をしています。今までは、現場第一主義で一生懸命汗をかいてきました。しかし、地域支え合い協議会の中だけの活動では限界があります。

行政や様々な団体と一緒に動いていくためには、私がこのような市の審議会に入って、その中で、しっかりと意見を述べないといけないと感じました。

様々な世代が、みんな支え合う仕組みをつくらないと、それ以上先に進みません。人生100年時代に向けて、これからは、70歳以上の高齢の方々も、一緒になって元気に活動しようという思いです。

まちづくりに一番大切なことは？

今一度、「家族」とはどうあるべきかということを考えることが大切だと思います。家族にできること、できないことをしっかりと議論して、そこから地域をつくっていく。まちづくりの核は、そこだと思っています。地域支え合い協議会もそうですが、

一つ一つをみんなで作っていく、そういう地域という新たな「家族」を、次の地域の中でも広げて積み重ねていきたい。住み良いまちをつくりたいですね。

やはり、お互いにとことん話し合える中で、みんながしっかりと分かり合うことが、まちづくりの根幹だと思います。

市民の方々にメッセージを

これからの超高齢社会を乗り越えていくためには、「向こう三軒両隣」のような付き合いをしながら、新たな地域づくりをすることが、とても大切になるのではないのでしょうか。

遠くの親戚より、近くの他人に頼れるような、近所の人たちと、しっかりとつながるような関係をつくっていくかなければならない時代になると思います。

そのためには、地域でのボランティアなど、できることから始めてみてはどうでしょうか。
いきなり大きな夢を実現させるようなことはできません。日々の小さな積み重ねが、まちづくりの第一歩です。

新たな総合計画は、その第一歩を踏み出せるようなものにして、それが多くの人につながり、大きな輪になっていけばうれしいです。

【これからの取り組み】

これまでの取り組みや、まちづくり審議会での審議を踏まえ、計画の素案を作成します。

その素案を市のホームページなどで広く公表し、皆さんから素案に対する意見を募集(パブリックコメント)9月頃実施予定)する予定です。

その後、計画の原案を作成し、市議会での審議、議決を経て、計画を決定します。

【皆さんの意見・提案をお聞かせください】

原案を作成する前に、皆さんからの意見や提案などを十分に検討し、計画づくりに活かしていきたいと考えています。

パソコン・スマートフォンからの電子申請、10200010@city.tsurugashima.lg.jp、[271-1190](tel:271-1190)、271-1190、[2350-2292](tel:2350-2292) 住所不要
政策推進課宛て)で受け付けます。様式は自由です。

これからのまちづくりに対する皆さんの思いを、ぜひ、お寄せください。



Interview

ほそがい みつよし
細貝 光義さん
まちづくり審議会委員
公募により選出



詳細はこちら